

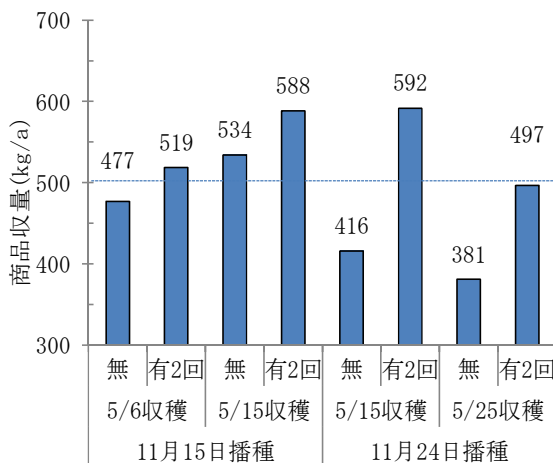
# 熊本地域におけるニンジンの無被覆・無マルチ栽培による4～5月どり栽培技術

4～5月どりにおいて、11月中旬～下旬播種は追肥を行うことで商品収量は概ね500kg/a以上が得られる

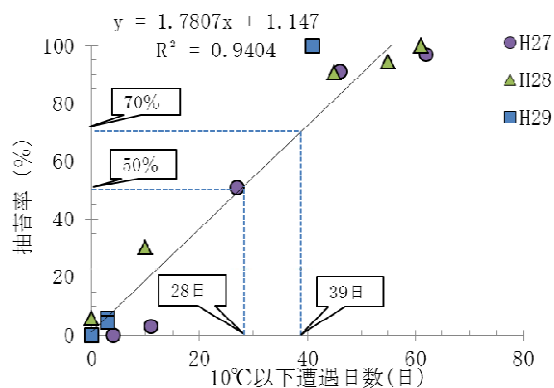
## 背景・目的

- ・4～5月どりニンジンには収穫期前の抽苔を回避するため、他県はPOトンネルによる被覆栽培が主流
- ・本県は近年の温暖化を利用した簡易被覆等による省力、低コスト栽培の可能性はある
- ・これまで無被覆・マルチ栽培における播種期、収穫期の関係について普及情報として公表
- ・さらに低コストな無被覆・無マルチ栽培について検討し、新たな作型を確立を目指す

## 成果の内容



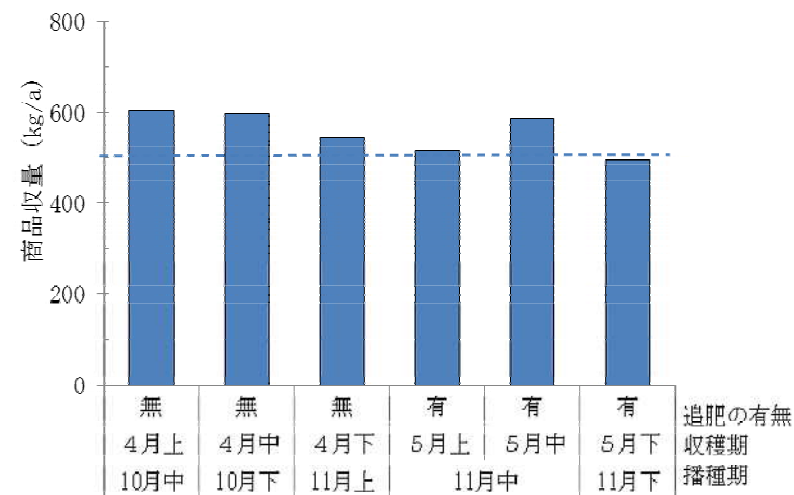
- ・追肥(NK2号)を2回行うことで増収 (N成分で1回当たり0.2kg/aを条間施用)  
1回目: 本葉4～5枚時  
2回目: 本葉7～8枚時



注) 抽苔率: 最終調査時点である5月末時点の抽苔率

- ・出葉数11枚以降における日最低気温10℃以下の遭遇日数から抽苔株率の推測が可能
- ・10℃以下遭遇日数が28日(約30日)で抽苔率50%, 同39日(約40日)で同70%になる

導入メリット



- ・播種期と追肥を組み合わせることで4～5月どり低コスト生産が可能
- ・ニンジン農家の経営安定と所得向上

## 期待される効果

4～5月どりニンジンの低コスト栽培と生産安定

普及対象・範囲 熊本地域 (10月～5月までの平均気温が16℃の地帯)